

# FOOL'S ART GALLERY



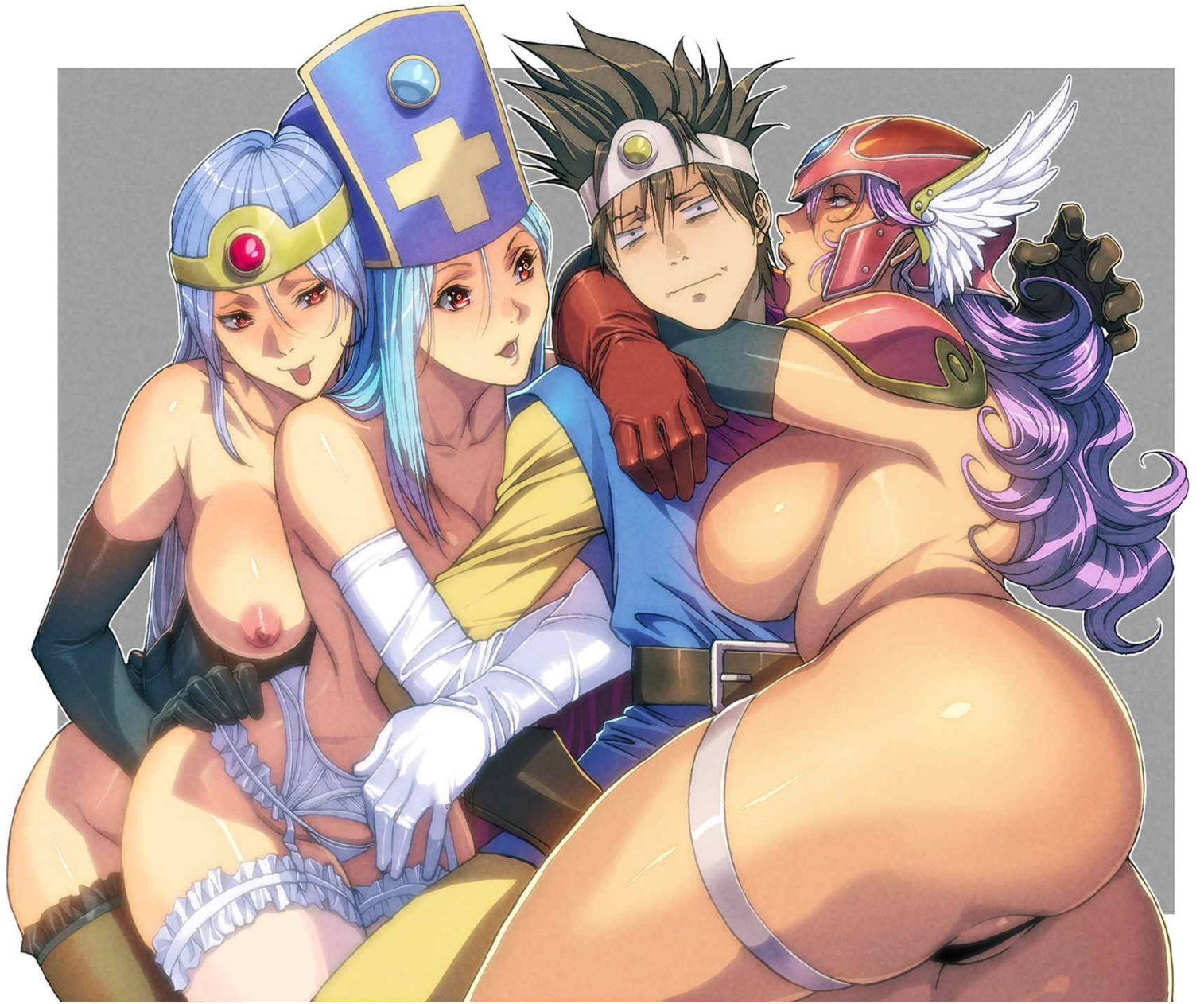
「か、体がもちましえん□□□□」



「今夜もタツブリ案」

魔物退治どころではない  
ハーレム地獄？

仲間が全員ビッチで  
勇者がピンチ



「勇者様」

「うおっ！俺の部屋でなんちゅうカッコしてんの！」

「今晚もいいでしょ？」

「勇者様とのHすごく燃えるの」

「ゴクリ……」

最近はずっと魔物との戦い続きだったし、たまの癒しも必要だよな……」



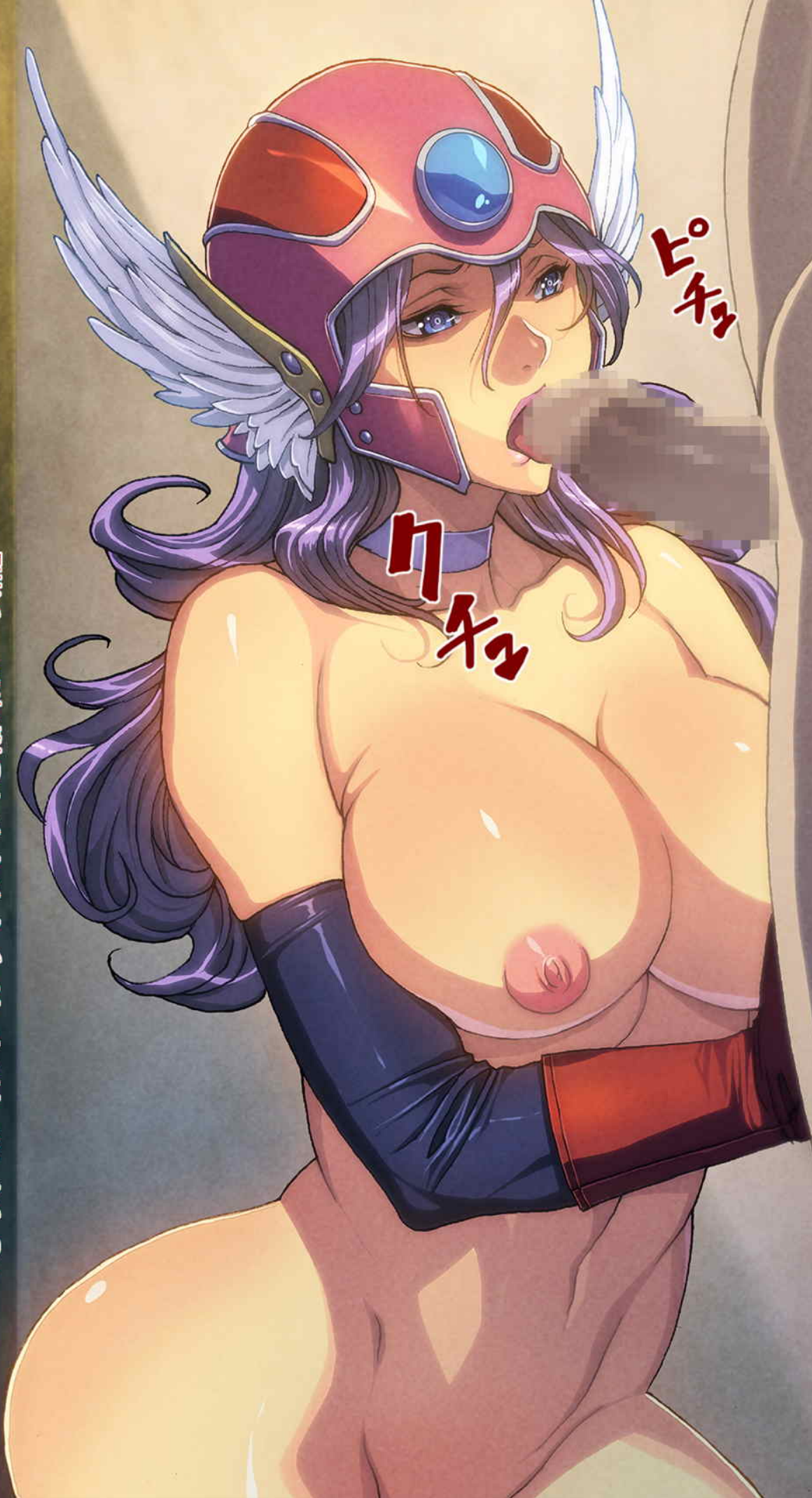
「じゃあ遠慮なく」

「ウフフ、それじゃまず私がし・て・あ・げ・る」

ピキッ

ワキッ

「凄い！勇者様のオチンチンかたくてたくましいわ」



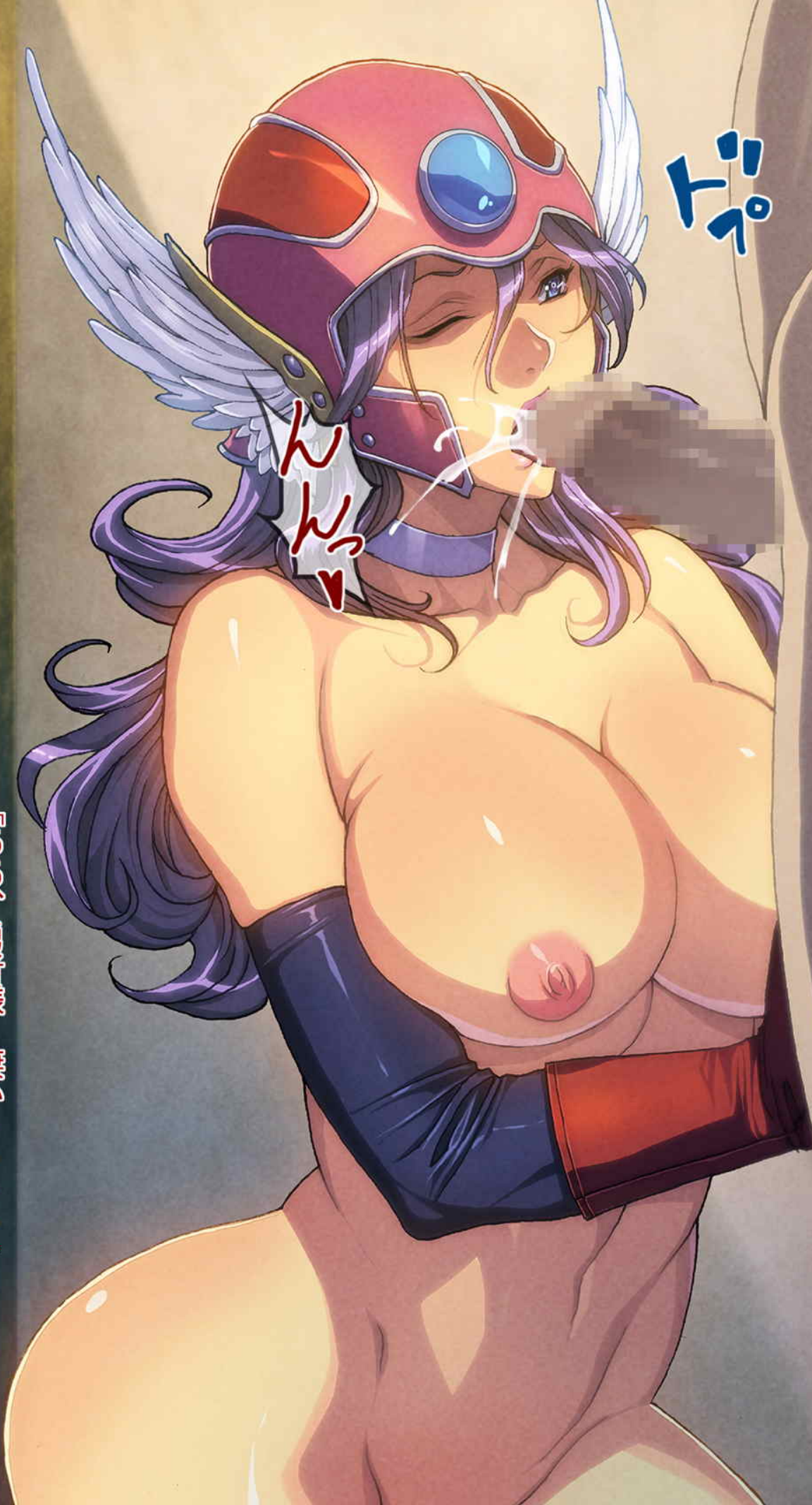
「うお、流石にうまいな  
もうイキそうだ!」

ドッ  
ッ

ド  
ッ

ん  
ん  
ん

「ああ、勇者様 凄い……」



「じゃ、今度は俺が

さあ、オシリをこっちに向けて」

「イヤン、恥ずかしい」

キヤッ

「ああん、気持ちいい」

しゅわっ

ヌク

アキッ

「今更何を、もうこんな  
グチヨグチヨじゃないか」

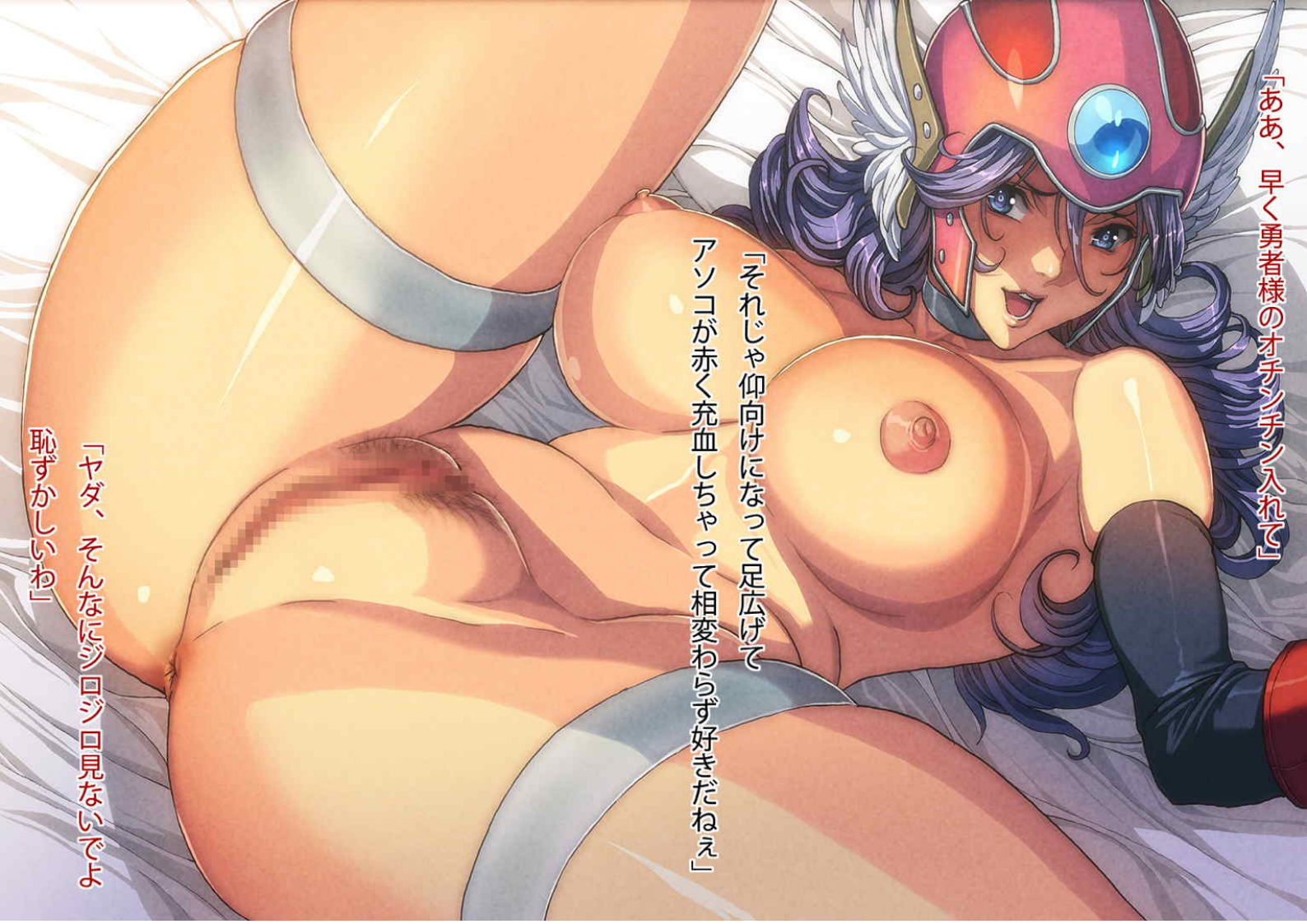
ピキッ

「だいぶ体もアツくなってきたな  
じゅわんじゅわん……」

「ああ、早く勇者様のオチンチン入れて」

「それじゃ仰向けになって足広げて  
アソコが赤く充血しちゃって相変わらず好きだねえ」

「ヤダ、そんなにジロジロ見ないでよ  
恥ずかしいわ」



「もうたまらんー！」

「ムなんてやめて生をせりせておんない！」

「ちよ、生はダメよっ」

「ちゃんと外に出すからさあ」

「おお、絞まる！」

「流石に体鍛えてるからかシマリも凄いな」

しゅわん

ぶちゅ

ぬちゅ

「あめん、もっと突らこえー」





「おお、おもしろいですねー」

「ええ、私にさっほらかけてえー」

「まっ、毎回パワフルで

魔物退治より体力使う……」

「ふふふ、

久しぶりの女戦士ちゃんとのHはたまらんかったなあ」

「あの、勇者様」

もじ

もじ

「おや、なんだい？」

「私の部屋に今からきてくれませんか」

「ちょ、どうしたの！急に服脱いだりして！」

「実は勇者様が女戦士さんと関係を持っているのを前から知っていました……私を抱いてくれませんか！」

「はあ？」

ドキ

ドキ

ドキ

「いつもお二人がHしてるの横の部屋から声が聞こえ私もうガマン出来ません！」

「そ、そうなのか……」

(彼女がそう言ってるんだから遠慮なくいただくか)

「こ、これが男性の……」

ドキ

ドキ

じ〜

……

「そんなにジロジロ見られると  
恥ずかしいな……。」



「そ、それでは失礼します」

くちゅ

くちゅ

ちゅ  
ぱ

「お、はじめてにしては  
なかなかうまいよ」



「それじゃあ今度は君の大きなオツパイでは喜んで  
パイズリして」

「ま、ごうですか？」

ヒキッ

ヒキッ

「そうそう、そのまま先端を舌を使ってなめて  
おく、気持ちいい」

「…おっも」

「んはあっ！」

おおっ♡

ビュ

ビュ

ビュルル

「ごめん、おもいっきり顔にかかっちゃったね……」

「いえ、大丈夫です」

「それじゃ後ろ向いて

バックからいたただいちゃうよ」

「ああ、キツイ……」

「おお、これはこれで女戦士ちゃんのと看きとはまた違つた気持ちよさだわ  
このまま続けるよ」

「はい！ああ、奥がアツいです  
私もう……」

アツ

アツ

ばん

ばん



「お！この娘自分から腰振りはじめた  
清纯に見えて結構好きモノだな」

「ああ、イイ！もっとお！」

「そろそろイクよ！」

「はい！」

ああん

ドク  
ドク

ドク  
ドク

「勇者様、今度からは女戦士さんだけでなくたまには  
私を相手にしてくださいね……」

「勇者様」

「ちよっ！何？そのカッコウ」

「ウフフ、今日の旅はとても疲れましたね

どうですか？私と一緒に骨休みといきませんか？」

「そんなカッコウされたら興奮して休むどころじゃ……」

「いいんですよ？遠慮なぞらざら  
私の部屋にきませんか」

「さあ、勇者様も裸になって私を好きのように」

「そ、それじゃ遠慮なく」

あ♡

「おお、この乳やわらかくて気持ちええ」

ちゅ〜

ちゅ〜

「今度は私が勇者様を気持ちよくさせてあげますわ」

「おおっーっまーっー」

あり

あり

ヒキッ

ヒキッ

ズキッ

「うふふ、

勇者様の凄くかたいですわ」

「ヤバイ、もういつちやいそうだ」

「なななな—っ—」

ドクドク

んんん

ドクドク

「ああ、勇者様の濃ゆいのがいっぱい出てくる……」

「ああ、勇者様、私もうガマン出来ない  
勇者様のオチンチン私に入れてください！」

は  
ち  
ゃ

ぷ  
る

ふ  
か

あ  
っ  
♡

イ  
ッ

「おお、こっちもイイ具合でたまらんっ！」

ず  
ち  
ゃ

「す  
ご  
い  
っ  
！」

勇者様のが奥で当たってるっ！」

私イっちゃいますっ！」



「お、俺ももうイクッ」

「ああ、アツいのが入ってくる……」

びゅん  
ねね

あぁ

「は、流石に仲間3人を相手はキツイな」

「あの、まさかもう終わりなんですか？」

「へ？」



「夜はまだまだですのに  
このままではまだ全然物足りませんわっ！」

「いや、もうムリなんだけ……ど……ど……」

あっ♡

ぶぎん

あっ♡

ぶぎん

パン

アッ

パン

「ああ、勇者様！もっと突いてえ〜！」

「も、もう死ぬ……」

